



やまと 端午のぼり

第二部・第八回

端午の節句・空に舞う鯉のぼり

真の国際化とは自分の国を知ること。彼岸が過ぎると飾られる武者人形と鯉のぼり。端午の節句には、子を思う親の気持ちが込められている。

text by 渡辺幸裕・photographs by 稲垣純也

端午の節句とは

男子の健やかな成長と立身出世を願う行事を行う日。「端午」とはそもそも月の初めの午の日を指す。「午」が「5」に通ずることから、特に5月5日を「端午の節句」として指すようになったという説がある。また、中国で5月5日に行われていた病氣や厄災を祓う節句と、日本の農家で厄除けとしてヨモギや菖蒲を飾り物として使う行事が結びついたものとも言われている。

4月も半ばを過ぎるとホテルのロビーには武者人形が飾られ、街では鯉のぼりを見かけるようになる。その光景は初夏の訪れを感じさせる。鯉のぼりも武者人形も、5月5日の「端午の節句」の飾り物であるが、その由来をご存じだろうか。

端午の節句の由来については上の説明を参考にさせていただきたい。今とは違った形だが、この節句は日本でも古く奈良時代から知られていた。やがて厄災除けに使われていた「菖蒲」と「尚武(武事を尊ぶ)」の音が同じであることから、立身出世を願う意味を持つようになる。こうして江戸時代には男子の節句として祝われるようになった。端午の節句の飾り物には「内飾り」と「外飾り」がある。内飾りとは家の中に飾る人

形、鏡、兜のことで、外飾りは鯉のぼりや武者絵のぼりのこと。

武者ではもともと梅雨入り前でもある端午の節句に、先祖伝来の鎧や兜を手入れを兼ねて座敷に飾り、旗指物(のぼり)を玄関に飾る風習があった。これが今も残る端午の節句の飾り物になった。この風習は庶民の間にも広まっていくが、商人や町人の家には鎧ものぼりもなかったため、武具の模造品や吹き流しを飾るようになる。吹き流しが鯉の形になったのは、中国の登竜門伝説にあやかったからである。黄河上流の竜門の急流を登った鯉は霊力を宿し、竜に変身して天に昇っていくという故事になぞらえて、我が子の成長と出世を願ったのだ。昭和30年代後半になると、印刷技術の進

歩に伴って手描きの鯉のぼりよりも印刷された商品が人気を集めた。その影響で全国的に手描き職人も少なくなってしまった。今回取材で訪れたのは、鯉のぼりの生産量日本一の町、埼玉県加須市にある橋本隆さんの工房。今も手描き鯉のぼりの製作を続ける数少ない工房である。そんな橋本さんのところには、各地から手描きの鯉のぼりを求めて多くの人が訪れる。

現在では住宅事情が変わり、都心では特に、大きな鯉のぼりを揚げることもかなわなくなってきた。それでもなお、親が子を思う気持ちは古から変わることがない。親の気持ちが届けられた鯉のぼりを眺めながら、いま一度日本の伝統行事について考えたいものである。

鯉のぼり豆知識



駕籠玉
かごだま

現在では鯉のぼりのボールの一番上には「回転球」がついている。これは「駕籠玉」の名残。駕籠玉は神々のご加護がたくさんありますようにという願いを込めて天に近いくところにつけられたと言われている。



矢車
やぐるま

魔除けとしての飾り。お正月に飾る破魔矢と同じ役割を担う。



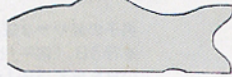
吹き流し
ふきながし

鯉が滝を登る時の水しぶきに反射した陽の光を5色で表現しているという説や五穀豊稔の祈り、そして陰陽五行に由来するという説などがある。

手描き鯉のぼりのできるまで

1 裁断縫製

綿布を鯉の形に裁断して、縫製をする。



2 目廻し

空を泳いだ時黒目が斜め下にくるように目を描く。



3 素描き

基本となる筋を描く。



4 薄墨

青や黄などの顔料を塗り込む。



5 こけ出し

目の周りのこけら(鱗)をハケで塗り、うろこを仕上げる。



6 ぼかし

鯉の腹の部分に色がにじんだような丸い点を入れる。



7 目の色つけ

緑、ピンク、黄などの色で目の色をつける。



8 群青塗り

最も濃い色、群青を全体の必要な部分に塗る。



9 金引き

金色で文様を描いていく。



10 墨目入れ

最後に墨で目を入れ、完成。



かつて手描きが当たり前だった頃は、模様が正確に描ける者が一流の職人と言われていた。印刷の鯉のぼりが普及した今、橋本さんはぼかしやかすれなどを技法として取り入れている。ここにあるのは、橋本さんの手描き鯉のぼりが完成するまでの手順。片側を描いては乾かし裏を描く。その繰り返しの作業で1匹の鯉のぼりを完成させるまでに数カ月を要する。

端午の節句の飾り物

鯉幟
こいのぼり

以前は真鯉と緋鯉が基本だったが、今ではそこに青や緑、紫などの鯉のぼりが加えられ、最初のセットも3匹1セットで売られている。4月中旬から5月中旬まで飾るのが一般的。

写真：新聞雑誌

菖蒲
しょうぶ

菖蒲は健胃薬や打ち身の治療薬として使われるもの。かつては菖蒲酒として用いられていたが、近年では菖蒲湯が最も身近であろう。香りが良く、体を温める作用もある。



武者人形
むしやにんぎょう

かつては鍾馗(しょうき)様と言われる人形が飾られていた。鍾馗様とは中国で祀られている受験や疫病除けの神。その顔の怖さゆえか、近頃ではあまり見ることはなくなってきた。鎧、兜とともに飾る弓や刀は魔除けの意味が込められている。

写真：人形的好洋 提供(左)、AFLO(右)



柏餅・粽
かしわもち・ちまき

端午の節句に食べるもの。茅(ちがや)の葉で巻かれていたことから粽(ちまき)という名がついたが、今は笹の葉で巻かれたものが一般的。柏餅を包む柏の葉には、新芽が出るまで古い葉が落ちないことから「子孫繁栄」の願いが込められている。



Yukihiro Watanabe

ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機に日本文化超初心者会“和・倶楽部”を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

橋本 弥喜智商店
hashimotoyakichishoten

住所：埼玉県加須市土手1-12-12
電話：0480-61-0371
営業時間：9:00～18:00
(11月初旬～5月5日は19:00まで)
<http://www.koinobori.co.jp/>



橋本 隆さん
三代目 弥喜智
埼玉県認定伝統工芸士

■ お知らせ ■

「日本かぶれ」では読者の皆様にご参加いただける様々なイベントを計画しております。伝統文化を体験するセミナーや伝統芸能を鑑賞する催しなど、日本をよりよく知るための機会としてご活用ください。詳細は当コラムと日経ビジネスアソシエオンライン(<http://nba.nikkeibp.co.jp/>)を通じて順次お知らせいたします。ご期待ください。